

丸山 英二（英米法・教授）

1．研究活動の総括（1995年4月1日～1998年3月31日）

この期間における研究活動は、主として、インフォームド・コンセント、臓器移植、臨床研究、エイズ、精神医療、遺伝医学などに関する法律問題を対象とするものであった。それ以外には、若干のアメリカ法一般に関する研究を著したのみである。なお、遺伝医学に関する研究については、1995～96年度において「遺伝学、遺伝相談、遺伝子治療に対する倫理的・法的問題の比較法的研究」の研究課題で、臨床研究に関する研究については、1997年度において「臨床試験をめぐる倫理的・法的諸問題の比較法的研究」の研究課題で、それぞれ文部省科学研究費補助金基盤研究(C)を受けた。また、エイズに関する研究については、1995年度において厚生科学研究補助金「エイズ対策の法制のあり方等に関する研究」（研究代表者・唄孝一）の分担研究者として研究に参加した。さらに、それ以外に、精神医療、エイズ、臨床研究、臓器移植、遺伝相談に関する厚生科学研究ないし厚生省研究委託に協力研究者として参加した（以下には、これらの研究成果として提出した報告書は含めていない）。加えて、1997年4月以降、家族性腫瘍研究会「家族性腫瘍における遺伝子診断の研究とこれを応用した診療に関するガイドライン」の作成に参加した。

2．公表された著書・論文等

(1) 著書・編著

(a) 単著

なし。

(b) 共著・分担執筆

中山研一・福岡誠之編『臓器移植法ハンドブック』54～70頁，77～80頁，171～72頁，176～77頁，191頁，199～200頁，203頁，205頁（日本評論社，1998-3）

(2) 論文

「意思決定能力を欠く患者に対する医療とアメリカ法」法律時報 67 卷 10 号 10～16 頁（1995-9）

「ヒトを対象とする臨床研究と生命倫理 アメリカと日本（講演記録）」リーガルマインド 145 号 3～21 頁（1996-4）

「精神科領域におけるインフォームド・コンセント 現状と課題」精神医学 38 卷 9 号 997～1005 頁（1996-9）（高柳功，江畑敬介，亀井啓輔，加藤伸勝，川瀬典夫，吉川肇子，白井泰子，高木俊介，八木剛平と共著）

「インフォームド・コンセントの法理の法的諸問題」松下正明・斎藤正彦編『精神医学と法（臨床精神医学講座 22）』225～39 頁（1997-11）

「脳死と臓器移植」神戸法学雑誌 47 卷 2 号 229～54 頁（1997-9）

「臓器移植法における臓器の摘出要件」法学セミナー 517 号 22～26 頁（1998-1）

(3) その他

(a) 解説

「インフォームド・コンセント その法的側面」「遺伝相談・遺伝学的検査の法律問

題」厚生省精神・神経疾患研究委託費/筋ジストロフィー研究班第3班編『筋ジストロフィーにおける遺伝子診断・遺伝相談ガイドブック』25～28頁，39～46頁（1995-3）

「インフォームド・コンセントと同意能力」家族性腫瘍研究会 Newsletter 4号4頁（1998-1）

(b) 判例評釈

「Tarasoff v. Regents of University of California」，「Mills v. Wyman」，「Webb v. McGowin」，「Feinberg v. Pfeiffer Co.」別冊ジュリスト 139号『英米判例百選 [第3版]』194～95頁，204～05頁，206～07頁，210～11頁（1996-11）

「未熟児網膜症事件」別冊ジュリスト 140号『医療過誤判例百選 [第2版]』162～67頁（1996-12）

(c) 座談会

「臓器移植法をめぐる」ジュリスト 1121号4～29頁（1997-10）（島崎修次，中森喜彦，野本亀久雄，唄孝一，町野朔と）

(d) 翻訳

「ヒトを対象とする研究に関する合衆国の規則(1)(2) - - 厚生省の規則」神戸法学雑誌 46巻1号242～220頁（1996-6），47巻3号616～599頁（1997-12）

(e) 書評

「木南敦『通商条項と合衆国憲法』（邦文文献紹介）」アメリカ法 1996-2号396～98頁（1997-3）

(f) 雑

「第10回国際エイズ会議」年報医事法学 10号183～179頁（1995-9）

「脳死と臓器移植」凌霜 328号6～8頁（1996-2）

「二つの国際会議に参加して」社会科学国際交流江草基金『斐然十年 江草基金のあゆみ』210～211頁（1997-6）

「死の判定の選択の問題も」産経新聞平成9年6月17日朝刊（1997-6）

「久保敬治先生と院生の就職」『金沢，仙台，神戸そして大分 久保敬治先生喜寿記念随想集』63～64頁（1997-7）

「精神障害者の社会復帰，触法精神障害者，そして痴呆性老人 アンケートを読んで」日本精神病院協会雑誌 16巻11号53～57頁（1997-11）

「1994年～1996年医事法学文献目録第1表」（無署名）年報医事法学 10号255～226頁（1995-9），11号279～253頁（1996-8），12号225～195頁（1997-8）

3. 教育活動

(1) 学部講義・演習

1995年度前期に「英米法」（法学部）を，1996年度前期に「英米法」（昼間主コース，夜間主コース）を，1997年度前期に「英米法」（昼間主コース）を担当した。

1995年度から1997年度にわたり「英米法演習」（法学部）を，1997年度前期に「基礎演習」（大学教育研究センター）を担当し，アメリカ法と日本法を素材に医療をめぐる法律問題を扱った。

(2) 大学院特殊講義

1995 年度後期には Geoffrey C. Hazard, Jr. & Michele Taruffo, *American Civil Procedure: An Introduction* (Yale, 1993)を, 1996 年度後期にはアメリカの医療過誤訴訟の証人調記録を, 1997 年度後期には Charles Alan Wright, *Law of Federal Courts* (5th ed. West 1994)を読んだ。また, 1995 年度から 1997 年度にわたり総合研究コース科目「公法特殊講義(法思想)」の一部を担当した。

4. 学会報告・講演

「ヒトを対象とする臨床研究と生命倫理 アメリカと日本」(1996-2, 医薬品企業法務研究会[神戸])

「法律の立場からみた生命倫理の諸問題 インフォームド・コンセント, 脳死移植, エイズ」(1996-3, 京都女子大学宗教・文化研究所バイオエシックス公開講演会[京都])

「脳死と臓器移植」(1997-7, 神戸法学会総会[神戸]; 1997-7, 芦屋市立公民館・春の公民館講座[芦屋])

「Washington v. Glucksberg; Vacco v. Quill」(1997-9, 第 34 回日米法学会総会[東京])

「インフォームド・コンセントと同意能力」(1997-9, 家族性腫瘍研究会・がん素因の遺伝子診断の倫理的・法的・社会的問題をめぐって[京都])

「臨床研究 アメリカの場合」(1997-12, 第 27 回日本医事法学会総会[東京])

5. その他の学外活動

1995 年度および 1997 年度に近畿大学法学部, 1997 年度に南山大学法学部において「英米法」を担当した。

従前より引き続いて全期間にわたり日本医事法学会理事, 日米法学会機関誌「アメリカ法」編集委員(1997 年 5 月まで編集幹事), 日本医事法学会機関誌「年報医事法学」編集委員。1995 年 9 月より日米法学会評議員。

従前より引き続いて全期間にわたり兵庫県精神医療審査会委員および神戸市立中央市民病院倫理委員会委員。1995 年 12 月より兵庫県立こども病院倫理委員会委員, 1996 年 5 月より神戸市精神医療審査会委員, 1998 年 2 月より厚生科学審議会先端医療技術部会・ヒト組織を用いた研究開発の在り方に関する専門委員会委員。

6. おわりに

向後なすべき仕事としては, 刊行後 8 年を経た講義案『入門アメリカ法』の改訂, 遺伝医学・遺伝相談, 臨床研究, 精神医療, エイズの法律問題についての研究をまとめること, そして, わが国の医事法の英文概説書の執筆, と掲げることができるが, 時間的能力的制約を思うとはなはだ心許ないものがある。